

令和 2 年 5 月 30 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K16955

研究課題名（和文）都市下層労働者のモビリティと対抗運動の動態：場所概念の新たな可能性

研究課題名（英文）Mobilities of urban lower-class laborers and dynamics of the counter movements:  
search for alternative conception of Place

研究代表者

原口 剛 (HARAGUCHI, TAKESHI)

神戸大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：40464599

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、第一に、戦後の寄せ場地域や港湾地域を対象として、労働運動の展開過程に関わる一次資料を収集・アーカイブ化するとともに、インタビュー調査によって貴重な証言を記録することができた。これらの記録やそれらの分析により得られた知見は、ウェブサイトの作成・公開などの方法によって公表した。第二に、本研究の調査研究から得られた理論的知見を国内外の学会やカンファレンスにおいて提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、寄せ場や港湾といった複数の対象地とした資料収集・分析やインタビュー調査によって、流動することを常とする都市下層労働者が形成する場所のありようを捉えたという点にある。そのことにより本研究は、「場所」概念を複数のかつ動的な過程として把握する可能性を開いた。また本研究の社会的意義としては、その記録的価値の高さが挙げられる。本研究においては、都市下層労働者の運動に関連する貴重な一次資料を幅広く収集し、デジタル化することによって、長期的に保存・参照しうるアーカイブを作成した。また、ウェブサイトを作製することによって、諸資料を閲覧しうる環境を構築した。

研究成果の概要（英文）：The achievement of this study is summarized as follow. Firstly, I collected and archived broad range of historical primary sources on Yoseba and port labor movements in postwar era, and conducted an interview research on those sources. I published those archives and findings in diverse ways including academic papers and public websites. Secondly, I published theoretical findings gained from case studies at academic meetings and conference inside and outside of the country.

研究分野：人文地理学

キーワード：場所 モビリティ 労働 都市下層労働者 記憶

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

場所の本質主義的な概念化を脱し、絶えず変化する過程として再概念化することは、グローバル化を批判的に捉えるうえで最重要の地理学的課題である。このように「過程としての場所」を把握するうえで、「モビリティ」と「労働」というふたつの概念が決定的に重要であると考えられる。「モビリティ」概念について、たとえば移民とその対抗運動は、グローバル化という状況下において対抗的な場所を形成する主体として、地理学的議論の中心的位置を占めている。また「労働」概念について、労働者が主体的に場所を創出する過程に注目すべきとする「労働の地理学」の議論をはじめとして、労働者とその運動の動態を明らかにすることは、世界的な課題として浮上している。

これらの理論的視角にもとづいた事例研究は、国内においても積み重ねられつつあるが、都市下層労働者に関する研究は見過ごされてきた。そのような労働者の流動は、ここで述べたような「場所」・「モビリティ」・「労働」という概念の理論的展開を、事例研究の見地から検証するうえで重要な対象である。

### 2. 研究の目的

本研究は、「場所」・「モビリティ」・「労働」という現代地理学の重要概念に注目しつつ、都市下層労働者の労働史および対抗運動の動態を明らかにすることを目的とする。具体的には、戦後の都市における下層労働者の移動経験や対抗運動の動態を探究し、その思想や実践が国内外の他の場所へと伝播する過程を、インタビュー調査および資料収集等の方法により明らかにする。

また、これらの事例研究と並行しつつ、場所概念に関する地理学的研究の展開可能性を、以下のとおり提示する。まず、「場所」・「モビリティ」・「労働」という地理学的概念が有する射程を具体的に提示することにより、それらの概念が有する現代的意義を提示する。さらには、現代都市における景観形成という課題にも焦点を当て、場所と記憶に関する理論的視座を構築する。

### 3. 研究の方法

本研究の主たる調査手法は、労働者や活動家に対するインタビュー調査および資料収集である。都市下層労働者やその対抗運動が有するモビリティに焦点を当てる本研究の性質上、対象とする地域は複数にわたる。具体的には、1) 釜ヶ崎・山谷・寿町・笹島などの寄せ場地域、2) 瀬戸内地方の造船業地域や福岡・筑豊をはじめとする旧産炭地域、3) 大阪港を中心とする港湾地域、である。本研究では、労働者の移動経路や対抗運動の波及経路をたどることで、これら複数の場所の関係性を解明し、また、その背後に存する産業や地域の構造的変容をも明らかにする。さらに、これらの事例研究から得られた知見を理論的研究の知見に照らし合わせることにより、「場所」・「モビリティ」・「労働」という概念を再考する。

### 4. 研究成果

(1) 大阪・釜ヶ崎や東京・山谷をはじめとする寄せ場地域の労働運動にかかわるピラや冊子などの一次資料について、はばひろく資料を収集することができた。これらの1次資料は、運動の展開や各地の影響関係、都市下層労働者の移動性を具体的に知るうえで重要な歴史的価値をもつが、各地に散在したまま個人的に保管されているケースがほとんどであり、散逸・紛失することが危惧される状態にあった。本研究においては、これらの資料を撮影してデジタル化することにより、長期的に保存・閲覧できるアーカイブを作成した。また、それらの資料が作成された当時を知る当事者や、作成者・執筆者に対するインタビュー調査を継続的に遂行した。そのことにより本研究は、これまで明らかではなかった資料作成の地域的・歴史的背景について、新たな知見を得ることができた。なお、本研究において収集し得た資料は、想定していた分量をはるかに上回り、当初の計画をこえる成果が得られた。それゆえ、限られた研究期間のなかですべての資料の整理・分析を完結させるには至らなかった。またインタビュー調査についても、当時を知るインフォーマントから次々のご紹介いただき、すべての方を網羅することはかなわなかった。これらの点について、さらなる調査・整理・分析の作業が今後の課題として残されている。

(2) 上記(1)の研究を進めるなかで、1960年代末から2000年代に至るまで、釜ヶ崎の記録写真を撮影しつづけた写真家の中島敏氏の協力を得て、これまで未公表だった写真ネガ(約1万点)についてデジタル化に向けた取り組みを開始した。これらの写真記録は、都市下層労働者の生きられた経験を知るうえで重要な分析素材でもある。したがって一次資料としてきわめて高い記録的価値を有し、これらを保存しデジタル化することには大きな社会的意義がある。また、本研究では、これらの写真ネガのデジタル化を進めると同時に、中島敏氏にご協力いただき、撮影された場所や年代の特定のほか、中島氏の労働・生活経験、写真に込めた思いなどについてインタビューを実施した。このような機会は、労働の記憶とその保存・継承を目的とする本研究にとって、きわめて重要であった。またこれらの写真資料がもつ社会的意義を踏まえ、本研究の最終年度においては、ウェブサイトを構築・公開することにより、写真群を一般に閲覧できる環境を整えた(「中島敏フォトアーカイブ(<https://atom.log.osaka/sn01>)」)及び「解題 中島敏フォトアーカイブ(<https://project.log.osaka/nakajima/>)」。なおこれらの写真群についても、限られた研究期間のなかですべてを整理・分析するには至らず、今後継続すべき課題として残されている。

( 3 )神戸港を中心とする戦後の港湾労働運動について、きわめて重要な一次資料を収集することができた。また、収集した資料を踏まえ、港湾労働運動を担った当事者にインタビュー調査を実施し、港湾労働の歴史の実態や、労働運動の展開の詳細などを明らかにした。なかでも特筆すべきは、神戸港において蓄積された諸資料のなかでは、労働者自身の手による随想や手記などの記録が多数残されていたことである。本研究においては、これらの資料を分析・読解することにより、労働者の労働や移動の経験を多面的に把握することができた。とりわけ最終年度においては、神戸港に固有の運動である労災職業病闘争に焦点をあわせ、アスベスト被害をはじめとする港湾労働災害の実態や、その闘争の展開過程の詳細を明らかにした。この作業により本研究は、現代の環境問題へと接続しうる知見を得ることができた。

( 4 )1990年代以降の野宿者運動は、寄せ場の運動と直接的な連続性を有しており、上記( 1 )の研究課題を進めるなかで収集した一次資料には、野宿者運動に関するものも多数含まれていた。したがって本研究では、1990年代以降の野宿者運動にも視野を広げ、これについてもインタビュー等の調査を実施した。この取り組みによって、公共空間における反排除闘争や、立ち退きに抗う反ジェントリフィケーション闘争の実態や展開過程を明らかにすることができた。この点は、本研究の課題である都市下層労働者の「場所」・「モビリティ」・「労働」を、歴史的のみならず現在の視点から捉えるうえで、きわめて重要な視点となった。

( 5 )上記の( 1 )～( 4 )の幅広い事例研究を踏まえて、そこから得られる理論的な知見を、国内の学会や海外のカンファレンスの場にて報告し、国内外の研究者と議論を交わすなかで、本研究のキーワードである「場所」「モビリティ」「労働」について豊かな知見を得ることができた。具体的には、一方で都市下層労働者の移動や流動がかけ離れた場所を結びつけることにより各地の運動には共通の基盤が生み出されたこと、他方でそれら運動の具体的な展開が場所に固有の差異をも生み出すことを明らかにした。また、とりわけ1990年代以降の野宿者運動の局面においては、労働現場や労働市場の問題に加え、再生産労働の意義が重視されるようになった。本研究は、このようなシフトが「労働」の概念それ自体を変容・拡張させるものだったことを論じ、その現代的意義を明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 原口剛	4. 巻 第10号
2. 論文標題 「労働者の像から都市の記述へ 酒井隆史氏の書評への応答, 白波瀬達也「貧困と地域」への問い」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『理論と動態』	6. 最初と最後の頁 104-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口剛・平田周	4. 巻 第21号
2. 論文標題 「解題 プラネタリー・アーバニゼーションをめぐって」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『空間・社会・地理思想』	6. 最初と最後の頁 95-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 原口剛	4. 巻 2019年10月号
2. 論文標題 ジェントリフィケーションの暴力を直視せよ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 建築雑誌	6. 最初と最後の頁 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takeshi HARAGUCHI	4. 巻 6
2. 論文標題 A Historical Geography of Kamagasaki and the "People's Infrastructure"	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Disaster, Infrastructure and Society: Learning from the 2011 Earthquake in Japan	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeshi HARAGUCHI	4. 巻 6
2. 論文標題 Struggles Over the Expropriation of Urban Space: The Case of Osaka (都市空間の略奪をめぐる抗争 大阪のケース・スタディ)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京外国語大学国際日本学研究報告	6. 最初と最後の頁 75-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 原口剛
2. 発表標題 「プラネタリー・ジェントリフィケーションと「略奪による蓄積」」
3. 学会等名 カルチュラル・タイフーン2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi HARGUCHI
2. 発表標題 'State-led Gentrification and Revanchism in the Olympic City: The case study of Tokyo'
3. 学会等名 East Asian Regional Conference in Alternative Geography (EARCAG) 9th Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原口剛
2. 発表標題 都市空間の略奪をめぐる抗争 大阪のケース・スタディ (The Conflicts over Exploiting Urban Space: A Case Study in Osaka)
3. 学会等名 東京外国語大学大学院日本学研究・現代アフリカ地域研究センター共催シンポジウム「日本 アフリカ関係を通じたグローバル資本主義の批判的検討：土地、空間、近代性」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 原口剛
2. 発表標題 スマートなるものへの問いと抗い 寄せ場研究の視座から
3. 学会等名 人文地理学会第124回地理思想研究部会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 原口剛
2. 発表標題 マルクス主義とフェミニズムの接点
3. 学会等名 日本地理学会2019年秋季学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原口剛
2. 発表標題 港湾労働者の労災職業病闘争と「空間の政治」
3. 学会等名 日本地理学会2020年春季学術大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 船本洲治遺稿集刊行会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 373頁
3. 書名 『[新版]黙って野たれ死ぬな』（原口剛「船本洲治、解放の思想と実践」（15-39頁）を担当執筆）	

1. 著者名 原口剛	4. 発行年 2016年
2. 出版社 洛北出版	5. 総ページ数 409頁
3. 書名 叫びの都市 寄せ場、釜ヶ崎、流動的下層労働者	

1. 著者名 小笠原博毅・山本敦久編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 航思社	5. 総ページ数 269頁
3. 書名 反東京オリンピック宣言（原口剛「貧富の戦争がはじまる オリンピックとジェントリフィケーションをめぐって」（94-109頁）を担当執筆）	

1. 著者名 Raquel Varela, Hugh Murphy, Marcel van der Linde編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Amsterdam University Press	5. 総ページ数 742頁
3. 書名 Shipbuilding and Ship Repair Workers around the World: Case Studies 1950-2010 (Takeshi Haraguchi, Kazuya Sakurada, "Chapter 23, The lower labour market and the development of the post-war Japanese shipbuilding industry."(pp. 591-614)を担当執筆)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----